

七、先生の略伝

明治十六年八月七日

茨城県筑波郡大穂村字佐、農助川太平次男として誕生

明治四十四年七月

愛知医学専門学校卒業

明治四十四年九月

伝染病研究所に所員として入所

大正三年十一月

伝研退所

大正三年十一月

北里研究所に所員として入所、柴山博士のもとにて細菌学研究

大正四年

藤波博士と共にレントゲンに関する（血球、ルイレキ）研究をなす。

同年二月

神奈川県立衛生試験所に技師として入所、防疫研究主任となる。

大正五年

痘毒培養の研究に着手。

大正七年

狂犬病研究に志す。

大正十年

京大審査「医学博士」授与 博士論文は「ベスト免疫動物の血液像並びに造血

臓器（脾淋巴腺）の組織学的研究」

神奈川県中郡小峯、鈴木易藏次女フミ子と結婚

犬体予防注射法完成

大正十三年

長男喜男出生

大正十四年

痘毒培養に成功

次男佐出生

昭和三年

土浦市に転住、開業し研究に没頭す。

神奈川県衛生試験所嘱託となる。

三男弘之出生

昭和七年

同右退職

昭和十二年

鶏卵内培養百五十三代に及ぶ。

昭和十五年

細菌学雑誌（四月と九月）に、「痘毒人工培養法並に無菌痘苗の製法に関する実験研究」を发表。厚生省より鶏卵痘苗製造の許可があり、牛痘苗と並んで一般種痘に始めて実施される。